

令和2年度の検討会で議論した意見について、ビジョンの項目別に振り分けて整理した。これらの意見のうち、本ビジョンに反映できるものは、ビジョンの各項目に反映している。一方、解決に向けて時間を要する課題や、引き続き検討が必要と思われる事項については、ビジョン別添として本検討会【資料8】課題、引き続き検討すべき事項に整理している。

■黒字：令和2年第1回検討会での意見

■緑字：令和2年第2回検討会での意見

7. 施設の整備と維持管理

項目	主な助言・意見	回答(案)
屋久島登山道の利用体験ランクと整備・管理方針	利用体験ランクの各項目の記載と、実際の整備とでは違いが生じている。(レク森協議会 日高氏)	各ルートの利用体験ランクと、実際の環境、施設、管理等は違いが生じる。これを補完するために、施設整備・維持管理シートには、より現場に即した記載としている。
	各ルートについては5年～10年後に目指すべき姿を議論しランク付けをしている、ただし、縄文ルートについて、50年後の使い方や目指すべき姿について深く議論されていない。議論がないままに話が進んでいることが懸念される。(宮之浦岳参り伝承会 中川会長)	未来像をしっかりと確定させるための議論が必要であることは、【資料8】課題、引き続き検討すべき事項にも記載している。 「未来像・目標(50年後の目指す姿)」は山岳部全体が書かれており、そこには縄文杉ルートも含まれている。
	「施設整備・維持管理シート」への記載を進めるにあたり、「整備・管理方針」の取り扱いや引き続き現場レベルの協議が必要であることを追記してほしい。(屋久島観光協会ガイド部会、屋久島山岳ガイド連盟、屋久島町観光町づくり課)	「整備・管理方針」の表欄外と、特に議論が必要な項目へ赤字追記している。
	確定した日付を記載する。その後、修正や追記が生じた場合には、都度、日付を記載すべき。(土屋委員、柴崎委員)	確定した日付、修正及び追記した日付を記載する。修正及び追記した理由は議事録で確認でき

		るようにする。
登山道区間ごとの施設整備・維持管理シート（案） →ビジョン別添へ入る	今後の利用者へのモニタリングを見据えて、「図1 登山道区間ごとの施設整備・維持管理水準」の区間Noをわかりやすくするために振りなおしてほしい。（吉田委員）	
	結論をだす方向に向けて進めてほしい。（屋久島観光協会ガイド部会 伊熊副部会長）	今後、シートへの記載を進めるにあたり、本方針の取り扱いや引き続き協議していく場が必要であることを、「屋久島登山道の利用体験ランクと整備・管理方針」へ赤字追記している。
	管理主体が明確になっていない登山道については、今後、どのような場で議論していくか。（屋久島山岳ガイド連盟 古賀代表）	関係機関で集まり、管理主体が決まっていない登山道や、具体的な施設整備・維持管理について話し合いの場を設けることを進めているところ。
	第3回検討会までに合意できない課題等の取り扱いはどのようにしていくのか。（屋久島山岳ガイド連盟 古賀代表）	合意できなかった課題や問題点を抽出して、ビジョン別添として取りまとめ、関係者間で引き続き議論していく。
	施設整備・維持管理シートは公表されるのか。（屋久島観光協会ガイド部会 中馬部会長）	整備・管理方針であるため管理者側として管理するもの。基本的に積極的に発信するものではない。

8. 利用者誘導と情報の提供 (1)利用者誘導

項目	主な助言・意見	回答
ランク別の誘導方法(①～⑤)	表4「誘導方法（案）」に、ランクの難易度や道迷いの難易度もいれてほしい。（屋久島山岳ガイド連盟 古賀代表）	難易度や道迷いについてはビジョン本体とは別に、難易度の考え方として整理していく。今後は議論を深めつつ精査していく必要があることから、本検討以降の検討の場で、議論を継続していくことを考えている。

	将来的には全ルートで事前レクが望ましいとしているが、表4との整合がとれていない。(鹿児島県自然保護課 眞邊主事)	表4⑤は、全ルートに適用するといった表現に修正する。
	表4 屋久島山岳部全体の誘導方法の⑤にはガ括弧書きで(ガイドの同伴が課せられた区間)とあるが、そのような区間は存在しているのか。(レク森協議会 日高氏)	現時点はそういった区間はない。ただし、エコツアーリズム推進協議会や自然公園法の利用調整地区など、さまざまな制度ができた場合、そういった区間となる可能性もあるため、記載している。
将来的に望ましい誘導方法	エコツアー全体構想では事前レクについて議論が進んでいない。このため、山岳ビジョンの方で事前レクの具体的な方法を議論してほしい。(土屋委員、吉田委員)	事前レクについては、ガイド制度等のその他の仕組みと併せて考えていく必要があり、将来的にエコツアー全体構想で取り扱いを議論すべきものであるため、山岳ビジョンにおいては、あり方検討会での意見を記録し、考え方を記載している。
	屋久島は単なる登山をする場所ではなく、山岳信仰含めて神聖な場所である特殊なところであることを理解してもらうためにも、20～30分程度の事前レクは必須。(宮之浦岳参り伝承会 中川会長)	
	事前レクの内容は自然だけでなく歴史についても知ってもらい、そういった意識を持った登山者にだけ入山してほしい。今後、事前レクについては検討してほしい。(オブザーバー 大山氏)	
	全員に事前レクを受けてもらう環境をつくるべきといった考え方は賛成。事前レクの場所については、登山口よりも里で実施できる場所は多々ある。(屋久島観光協会ガイド部会 伊熊副部会長)	
	あるべき利用体験ルート(全29ルート)や公園計画に入っていない歩道は道迷いや遭難の危険があるため、今後の取り扱いについては、どこかに明記しておく必要がある。(屋久島山岳ガイド連盟 古賀代表、オブザーバー 日下田氏)	引き続き検討すべき事項として、課題、引き続き検討すべき事項の「(4) 管理者不在の歩道等の取り扱い」へ記載。
	《事前レクチャーの概要》の実施者は、屋久島公認ガイド等としているが、行政機関が担うべき。(レク森協議会 日高氏)	事前レクチャーの体制を構築するなかで、実施者が定まると考える。現時点では、具体的な主

		催者として想定される屋久島公認ガイド等としているが、「等」中には行政機関も含まれている。
	《事前レクチャーの概要》の対象者を山岳部利用者に限定してほしくない。(屋久島山岳ガイド連盟 古賀代表)	本ビジョンは、一般的な登山利用を想定して作成しているが、事前レクは島内全域の観光利用でも必要とされていることから「山岳部利用者等」で括る。
	「～ガイド制度等のその他の仕組みと併せて考えていくことが必要」とすると、これがあるため、自由に議論できないと感じる可能性がある。(柴崎委員)	「現時点で望ましいと考えられる仕組みの概要を示す。ただし、今後は、ガイド制度等のその他の仕組みと併せて考えていくことが必要である。」に修正。
	「～仕組みの概要を示すのみに留める。」としているが、消極的に感じる。(吉田委員)	
	内容の部分で、協力金には森林環境整備推進協力金も入る。(レク森協議会 日高氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋久島山岳部保全対策協力金 ・森林環境整備推進協力金 2つをまとめて「協力金」と表記
	利用者の立場になると、将来的に協力金一元化が望まれるが、ここで山岳部環境保全協力金と森林環境整備推進協力金の双方を記載すると、一元化が難しくなると感じる。(屋久島山岳ガイド連盟 渡邊事務局長)	重要な意見として受け止める。

8. 利用者誘導と情報の提供 (2)情報の提供

項目	意見	回答
公園法上で歩道としての取り扱いのないルート	公園法上で歩道としての取り扱いのないルートについては、どのような情報提供とするのか決めておく必要がある。(吉田委員)	利用者や観光事業者への周知にあたって、関係者間で斉一的な情報発信となるように留意していく。
標識による情報提供の内容	表2 情報提供の内容「登山に必要な情報発信」には、神聖な場所に入ることへの心がまえを記載してほしい。(宮之浦岳参り伝承会 中川会)	「 <u>神聖な山へ入ることへの心がまえなど</u> 」を <u>追記</u> する。

	長)	
	表2 情報提供の内容「登山に必要な情報発信」の協力金には森林環境整備推進協力金も入る。(レク森協議会 日高氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋久島山岳部保全対策協力金 ・森林環境整備推進協力金 2つをまとめて「 <u>協力金</u> 」と表記
標識の種類ごとの機能・設置場所	表3 標識の種類ごとの機能・設置場所「案内標識」には、登山道の難易度を記載してほしい。(屋久島観光協会ガイド部会 伊熊副部会長)	「登山道の利用体験ランク」の下に「 <u>登山道の難易度</u> 」を追記する。
屋久島山岳標識(案)	表4 屋久島山岳部標識に往復時間とあるが、天候や利用者によって違いが生じるため、前提条件を追記してほしい。(屋久島山岳ガイド連盟 真辺副代表)	・ <u>標識表記する際には、「無雪期及び天気良好の条件のもと、40～50代の登山経験者が利用することを前提とした所要時間を表記する。」</u> を追記する。
主要入口の標識による情報提供(イメージ)	ランクの難易度や道迷いの難易度が盛り込また記載を出してほしい。(屋久島山岳ガイド連盟 古賀)	屋久島のランクはROSを基本とし難易度だけでなく様々な要因を総合的に判断して作成している。ただし、難易度や道迷いについてはビジョン本体とは別に、難易度の考え方として整理していく。今後は議論を深めつつ精査していく必要があることから、本検討以降の検討の場で、議論を継続していくことを考えている。
	利用者にとっては、利用体験タンクよりも難易度の情報が有益。登山道の体力や難易度がわかる表示が望まれる。(屋久島観光協会ガイド部会 伊熊副部会長)	
	難易度ランクを色で示して、体験ランクはルートを通してランクを付けるというのが分かりやすい。(吉田委員)	
	利用体験ランクだけの表示であるなら、ルートの本数をへらすことで、見やすいものになる。また、ルートは区間水準より高めに設定しているため、リスク軽減が期待される。(柴崎委員)	
	利用体験ランクは計画時に必要であるためWebサイトや冊子などの情報では利用体験ランクを前面に押し出して説明。登山直前の入口看板は難易度を重視して説明する。(吉田委員)	
他地域のグレード	「信州山のグレーディング」は理解しやすい。屋久島でも作成すべき。(宮之浦岳参り伝承会 中川会長)	

9. モニタリング

項目	意見	回答
関係機関が収集・発信している屋久島全体の利用状況	屋久島山岳部環境保全協力金収受率の状況のうち、協議会運営費は必要ないと思われる。(屋久島町観光づくり課)	ご意見のとおり、「収受率の状況(収受率、収受金額、支出内訳)」に修正する。
	屋久島山岳部環境保全協力金の実施主体は屋久島町である。(屋久島町観光づくり課)	ご意見のとおり、「屋久島町」に修正する。
	路線バスの運行状況に「まっばんだ交通(株)」を追記すべき。(屋久島町観光づくり課)	ご意見のとおり、「まっばんだ交通(株)」を追記する。
管理目標ごとのモニタリング内容と項目	施設がこの程度整備されていて、その上で満足度がどの程度なのかを把握すべき。(柴崎委員)	実際のアンケート調査等を実施する際に、参考とさせていただく。
	現在実施している項目、追加すべき項目、方法、実施期間がわかりやすい表現にすべき。(柴崎委員)	管理目標ごとのモニタリング内容、項目、指標、方法、実施期間が入った「モニタリング整理表(案)」を作成する。
	ビジョンには来年度以降モニタリングできる程度の記載をすべき。(柴崎委員)	実際のモニタリング調査を実施する際には、有識者に別途助言いただきたい。このため、あり方検討会では、詳細な調査シートの作成までの議論はしない。
	管理目標ごとのモニタリング内容と項目にある、「鹿児島県熊毛支庁」は「種子屋久観光連絡協議会(事務局：鹿児島県熊毛支庁)」にしてほしい。(鹿児島県熊毛支庁屋久島事務所)	ご意見のとおり、「種子屋久観光連絡協議会(事務局：鹿児島県熊毛支庁)」に修正する。
熊毛支庁では「入込客数」という名称で実施している。管理目標ごとのモニタリング内容と項目にある、「入込者数」を「入込客数」にしてほしい。(鹿児島県熊毛支庁屋久島事務所)	ご意見のとおり、「入込客数」に修正する	

	路線バスの運行状況に「まつばんだ交通㈱」を追記すべき。(屋久島町観光町づくり課)	ご意見のとおり、「まつばんだ交通㈱」を追記する。
--	--	--------------------------

10. その他(管理体制・担い手確保)

項目	意見	回答
管理体制・担い手確保(座長私案)	長期的に様々な課題があり、解決に至っていない状況のなか、屋久島町にとって更に大きな負担がかかると思っている。(屋久島町観光町づくり課 木原統括係長)	本年度中に具体的なところまで詰められないが、今後どういった場所で議論していくのか、課題、引き続き検討すべき事項の「(10) 適正利用や観光振興に係る検討の場」へ記載。
	このような管理体系にする考えはいいのではないか。交代で事務局を務めるとあるが、地元のことなので、屋久島町が中心になってやるのが順当と考える。(屋久島観光協会ガイド部会 伊熊)	
	遺産地域と公園地域中心にかいてあるが、森林生態系保護地域も含めて、検討できるような組織になったほうがいい。(吉田委員)	
管理体制・担い手確保の周知	地域住民に周知し、納得してもらい、我が事として、ビジョンを担ってもらえる状況をつくるかが大きな課題と考える。(オブザーバー 日下田氏)	ビジョン策定後には、「屋久島山岳ビジョン」を島民はじめ、屋久島を訪れる一般の利用者や登山者にも知ってもらい、ビジョン実現にむけた普及・啓発などを予定しているが、具体的な内容は検討中。

課題、引き続き検討すべき事項(ビジョン別添)

項目	意見	回答
(4) 管理者不在の登山道の取扱い	「管理者不在の歩道等の取扱い」に関して、進捗状況等が一向に見えてこない。行政間の話し合いがどの程度なのか示してほしい。(屋久島観光協会ガイド部会 伊熊副部会長)	それぞれの課題への取組の方向性について、いただいた意見を踏まえながら記載を進め、ビジョン別添として入れる予定。
	それぞれの課題に対して、公的機関として考えを出してもらわないと、議論が進まない(柴崎委員)	

(5) 避難小屋	「白谷小屋については、もともと楠川集落と小杉谷との中間基地として機能していた経緯が」とあるが、小杉谷は45年に閉鎖をした後にできている。この経緯を確認してほしい。(レク森協議会 日高氏)	昔は楠川集落から登る人が多かったこともあり、小杉谷との中間地点として利用されていた経緯がある。現在ではほとんどの人が白谷雲水峡から入山しているので、日帰り客が休憩施設のみとして利用している。
	白谷避難小屋は他の避難小屋と違い、森林環境整備推進協力で運営していることを理解してもらいたい。(レク森協議会 日高氏)	ご意見のとおり、理解している。
(8) 情報提供	事前レクチャーについての項目が必要。(土屋委員)	(8) 情報提供に入る
(10) 適正利用や観光振興に係る検討	50年後に向けて屋久島自体を、どういうふうに関光の受け入れ態勢をしていくのかという項目が必要。(屋久島山岳ガイド連盟 古賀代表)	(10) 適正利用や観光振興に係る検討に入る
	検討の場についても項目が必要。(土屋委員)	
	屋久島レクリエーションの森保護管理協議会が入っていない。(レク森協議会 日高氏)	ご意見のとおり、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会を追記する。